リハビリテーション学科言語聴覚療法学専攻　【基礎分野】

必修科目　★太い線は、科目間の関連を示します。
選択必修科目　★3年次・4年次の該当科目はありません。
選択科目　（※複数開講科目）

■学習・教育目標■

幅広い分野にわたって教養を養い、生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観と、日常場面、職場、研究の場において必要となる基礎的な外国語によるコミュニケーション能力を併せ持つ人材を養成する。

	科目群の学習・教育目標	1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期
人文・社会科学系	心理、芸術や大学の地域社会との共生などの学びを通じて多面的に広い視野から物事を考えられるようになる。加えて、グローバル社会に向けて日本のことを学び、深い一般教養を備える。 さらに科学的思考の基盤を培い、人間としての尊厳を倫理面、および制度・経済・文化等多角的な視点から考えることができるようになる。	芸術※ ことばと社会※ 日本国憲法 保健・医療の現状と未来I 保健・医療の現状と未来 II 社会と大学I 社会と大学 II 社会と大学III	生命倫理学 芸術※ 職業適性論 ことばと社会※ 教育学		
自然科学系	自然科学に関する基礎的な内容を理解し、体系化された学問に幅広く触れる。 さらに、専攻分野を超えて、共通に必要な複合的視点から事物を理解できる能力を身につける。	数学 情報処理論 基礎物理学 基礎化学 基礎生物学 生命科学概論 人類遺伝学	統計学 物理学概論 生化学概論		
語学系	専門的な知識と技術を駆使して、課題の探求、解決する能力、並びにそれに必要な論理展開力とコミュニケーション能力（記述・表現・議論・語学力）を身につける。	英語プレゼンテーション	英語読解	保健医療英語 英会話※	英会話※ 医学英語

リハビリテーション学科言語聴覚療法学専攻　【専門基礎分野】

必修科目　選択必修科目　選択科目

★太い線は、科目間の関連を示します。

言語および音声の本質と特徴、心の働きといった言語聴覚学の基礎となる人文科学の知識を修得する。また、人体の生理、解剖、病理、発達、言語聴覚臨床の適応疾患に対する医学的治療について理解する。さらに、言語聴覚臨床における治療・訓練の実施、効果、およびリスク管理に関わる医学・医療関連領域の基礎知識を修得する。

■学習・教育目標■

	科目群の学習・教育目標	1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期
言語聴覚基礎系	コミュニケーションに関する理論、言語および音声の機能、構造、産生と認知の過程、発達に関する基本概念を理解する。	言語の表現法 音声学	言語学 言語発達学 心理言語学	音響学・聴覚心理学					
基礎医学系	言語聴覚臨床の基盤となる医療の方法論と倫理、人体の構造と機能、疾病と病態、加齢と老化、疾病の予防について理解する。	医学総論 解剖学 生理学Ⅰ	解剖学実習 生理学Ⅱ 人間発達学	生理学実習 病理学 運動学 衛生学Ⅰ	運動学実習 衛生学Ⅱ	病態運動学実習			
臨床医学系	言語聴覚臨床の対象となる疾患について各臨床医学科目を通して学ぶ。各疾患の疫学、原因、病態、検査、治療および予後等に関する基礎知識を修得する。			精神医学 内科学Ⅰ	内科学Ⅱ 小児科学 神経内科学 外科学 脳神経外科学 リハビリテーション医学 感染症・免疫学	臨床神経学 耳鼻咽喉科学 形成外科学 臨床歯科医学 口腔外科学			
	言語聴覚臨床における治療・訓練の実施、効果、およびリスク管理に関わる医学・医療関連領域の基礎知識を修得する。	薬理学 栄養学 救命救助法							
聴覚医学系 音声・言語	言語聴覚障害と関連の深い呼吸器系、発声発語系、聴覚系および神経系器官の機能、構造と基本的な病態に関する基礎知識を修得する。	聴覚系の構造・機能・病態 神経系の構造・機能・病態※	呼吸発声発語系の構造・機能・病態 神経系の構造・機能・病態※						
心理系	言語聴覚臨床の基礎となる心の働きを、臨床心理、認知と学習、発達、心理測定の各側面から理解する。	生涯発達心理学	学習・言語心理学	臨床心理学概論		心理的アセスメント			
社会福祉・教育系 地域包括支援	言語聴覚臨床の実施に関わる社会保障制度とリハビリテーションの基本概念を理解する。		社会福祉学 リハビリテーション概論						

リハビリテーション学科言語聴覚療法学専攻　【専門分野】

必修科目　選択必修科目　選択科目

★太い線は、科目間の関連を示します。

■学習・教育目標■

4つの専門領域（失語・高次脳機能障害系、 言語発達障害系、発声発語・摂食嚥下障害系、 聴覚障害系）における言語聴覚臨床の方法を理解し基本的な技能を修得する。また、言語聴覚士の専門性と業務を理解する。さらに各科目で学んだ知識を整理・統合するとともに、医療人として望ましい態度と科学的思考を身につける。

	科目群の学習・教育目標	1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期
言語聴覚基礎系	言語聴覚障害の特性と種類、言語聴覚士の専門性および言語聴覚臨床の基本概念を理解する	言語聴覚障害学概論					言語聴覚障害診断学		
言語聴覚障害の評価診断・治療	４つの専門領域（失語・高次脳機能障害系、 言語発達障害系、発声発語・摂食嚥下障害系、 聴覚障害系）の学修を通して、各種言語聴覚障害に対する評価診断と治療(訓練、指導、支援を含む）の方法を理解し、かつ基本的な技能を修得する。		高次脳機能障害学	失語・高次脳機能障害学Ⅰ	失語・高次脳機能障害学Ⅱ	失語・高次脳機能障害学演習Ⅰ	失語・高次脳機能障害学演習Ⅱ		
				言語発達障害学Ⅰ	言語発達障害学Ⅱ 言語発達障害学演習Ⅰ	言語発達障害学演習Ⅱ			
						音声障害学			
				吃音学 構音障害学Ⅰ	構音障害学Ⅱ	構音障害学演習			
						摂食嚥下障害学	摂食嚥下障害学演習		
				聴覚障害学Ⅰ（成人・重複障害含む）	聴覚障害学Ⅱ（小児）				
					聴覚障害学演習Ⅰ	聴覚障害学演習Ⅱ			
							聴覚補償論　（補聴器・人工内耳）		
言語聴覚療法マネジメント	言語聴覚臨床におけるマネジメント（職業倫理、法的責任、安全管理等）の基本概念を理解する。						言語聴覚療法管理学		
臨床実習系	病院・施設における言語聴覚臨床を見学、またはこれに参加し、講義で学んだ知識を深め適切な技能と態度を身につける。	見学実習					評価実習	総合実習	
総合領域	各科目で学んだ専門知識を整理・統合する。 個別の症例に対する問題解決能力とともに、医療人として望ましい態度と科学的思考を身につける。						臨床言語聴覚療法演習		総合言語聴覚療法演習
							言語聴覚学研究法		
								卒業研究	卒業研究